

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／ユニット1)

事業所番号	2770901870		
法人名	株式会社スギタ		
事業所名	サポートハウス灯り1		
所在地	大阪府高槻市八幡町10-7		
自己評価作成日	令和4年1月24日	評価結果市町村受理日	令和4年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の基に、その方がどの様に過ごしていきたいか？どの様な事が楽しみで過ごされたいか？何を希望されているか？等を日常生活の中から気づく事で、その方が施設に入り生活環境が変わっても、我慢することや、不安に思われる事がないように、常にコミュニケーションをとり、健康観察を行い、サポートさせて頂く事に心を尽くすケアを目標にしています。この事を実践するために、介護職員間は、風通し良く何でも相談できる環境を整備し、一致団結してケアが出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中で一人ひとりが居心地良い空間を保ちながら、生活の場として役割を持ち楽しみを見出して、生きがいをもって暮らせる支援を目指している。当事業所は開設より18年目を迎え、免震構造を施した3階建ての建物に移転して約3年となる。新住所での事業所開設時には地域住民の受け入れや理解はなかったが、旧住所の事業所見学や認知症についての説明を重ねて、地域社会での良好な関係性を進め、福祉関連の相談を受けるなどの交流が広がってきている。利用者の更なるベストで豊かな暮らしの具現化を目標とし、利用者・家族の共の心身のケアに携わり信頼関係を築いている。常駐の看護師(2名)による健康・薬剤管理や24時間オンコール体制の医療連携に利用者・家族は安心と信頼を寄せている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関前や1階2階のフロアーに、理念・方針を掲示しています。又、会議時には必ず理念に基づいて進めています。特に新人研修時・カンファレンスや計画会議には、理念を実践に繋げています。	「入居者が主人公、尊厳を保ちます、生きがいのある生活、地域社会と共に」の事業所理念を玄関、各フロアの目につく所や事務所に掲げ、家族・第三者への周知と職員の意識徹底を図っている。各種の研修時やスタッフ会議で理念に基づいての実践を振り返り、ケアサービスの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症で、外部からのお付き合いが出来ない状態ですが、家族・友人等オンラインや、窓越での面会・電話・手紙等で交流が絶えない様にしています。	コロナ禍以前は地域のボランティアや中学生の体験学習を受け入れ、外出時には近隣の方と挨拶を交わして交流を行っていたが、現在は自粛している。自治会に加入し自治会長から地域の情報を得ている。又グループホームについての質問に訪れる地域の人もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や民生委員に、灯りの様子や実態などをお手紙にして説明し、認知症の理解等を説明させて頂き、地域との理解に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営指針会議も新型コロナ感染症で中止になっています。意見や希望等あれば、電話などで連絡して頂くようにしています。	運営推進会議構成メンバー参加による実質会議の開催はこの一年は難しく、書面報告（利用者の人数・取り組み内容・行事・保健所などからの情報などを記載）を地域包括支援センター・自治会長・民生委員・家族に送付している。書面での実施で意見収集が課題となっている。	参加メンバーからの様々な質問・意見・要望を受けケアサービスの向上に繋げるよう、会議開催（書面報告）前に電話や手紙で意見の収集を図り運営推進会議の充実に向けての取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、高槻市に連絡しています。又、メールで高槻市から必要な連絡事項は頂いております。	市の生活福祉支援課の窓口や電話で事業所の現状と取り組み内容を報告し、情報やアドバイスを得て双方向的に協力関係を築いている。コロナ対策の情報や消毒液・マスク・防護服・フェイスシールドなどの支援物資を得ている。市の福祉施設部会のオンライン研修や、介護相談員の訪問受け入れ（現在は中止）等連携体制は構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいます。2か月に1回身体拘束会議を行うことで、全スタッフが身体拘束・虐待をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束指針文書を整え、2～3ヶ月に1度の身体拘束適正化委員会の勉強会と研修で内容と弊害について理解を深めている。利用者の安全を確保しながら抑圧感のない生活を目指し、玄関は施錠しているが各ユニット間の往来は自由となっている。言葉の遮りや声の掛け方が不適切場合は職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修や指針の整備・担当者を定める事が義務付けられました。全スタッフに虐待のないケアに取り組んでいます。又、スタッフの職場でのストレスがないように、話しやすい環境を作り防止に努めます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	重要事項や契約書に成年後見人制度について記載し、契約時に説明させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて納得して頂くまで、説明をし不安なく理解して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や、メール・電話で家族様からの不満や苦情を言いやすくしています。又、計画作成者が折に触れて家族と連絡を行い希望・意見等を反映出来る様に努めています。又、1ヶ月に1回月間報告書や写真・灯りたよりを発行しています。	利用者の18人中10人は意思の表出が出来て、日々の会話で聴き取り、表す事が困難な人には行動や表情・問い掛けで把握している。お寿司やプリン・ゼリー・ぜんざいを食べたい等、食べ物に関しての要望は随時応えている。家族には訪問時や電話で意見を聴き取り、夜が退屈しているみたいだとの意見に中の良い人同士で話し合得る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やレク会議・申し送りノート・気づきノートを交えて提案を聞き会社全体に周知しています。	毎月のスタッフ会議の意見や日々のケアでの気づきや提案は、その都度実施可能な事案から即改善に繋げている。昼・夜間の時間帯でパットトリハビリパンツを柔軟に変更して、トイレでの排泄を優先する事や、嚥下状態に応じて軟食からおかゆへの意見を取り入れている。法人代表と管理者による年2回の面談で、労働条件・処遇改善の要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の努力は、処遇改善金(年2回)や労働条件にも反映されるように、1年に一回考課表を付けてもらい面談し、スタッフ個々の意見や希望を直接話し合える場を持って、やりがいに繋がるよう、働きやすい環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部(主にオンライン研修)・内部研修等受講して勉強会で発表してもらい職員のステップアップに努めています。又、資質の向上にも力をいれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会(オンライン)に参加することで他施設の情報もわかり、サービスの向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との信頼関係を築く為に、管理者・職員と家族の絆を深め安心して任せて頂ける様に、家族様からの情報を密にして日々のコミュニケーションを深めていき、ご本人が安心して生活出来る様に支援します。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から密に話し合い、お互いに納得するまで説明させて頂きながら不安がないように、また希望をお聞きしながら、何でも気軽に話ができる信頼関係を作る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よくお話を傾聴し、計画に沿ってご本人の状態や家族の希望に併せて一番その方にあったケアを、考え提示していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日一緒に生活させて頂きながら喜びも不安も共有し、共に分かち合い人生の先輩として教えて頂きながら日々送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なしではケアが成り立たず、必ず密にコミュニケーションをとりご本人にとって、一番居心地の良い環境になるように相談し、共にご本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族キーパーソンと相談しながら、電話などで今までの関係を継続して頂ける様に努めています。	以前の住居の友人や活動(傾聴)と一緒にしていた知人・親族の訪問は現在自粛している。家族の面会は玄関ドアのガラス越しで行い、遠方の家族のオンライン面会は予約制で時間を決めて対応している。コロナ終息後は馴染みの美容院・友人宅の訪問・法事の参加などの外出支援を再開させたいとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を重んじてご入居者同士交流出来る様に、食卓の席を考えたり毎日の日常生活の中で職員が中に入る事で交流を深めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お葉書や、メールお電話を頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に接する時間を充分にとり生活支援の中から、ご本人の自己決定や希望を引出せるように努めています。	入居時の申込書に記入している好きな事・得意な事・楽しかった事・これまでの生活歴などを基にして、1対1になれる入浴時や居室内での会話で思いや意向を掴んでいる。3ヶ月毎に創る私の気持ちシート(楽しかった事・うれしかった事・苦勞した事・子供や孫に伝えたい事・やってみたい事・行きたい所など記している)を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴は大変重要で家族やご本人から時間をとって話や文書に記入して頂き、カンファレンス会議にて職員と話し合い介護計画書にいかし、把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人からのお話から介護計画書に基づきケアし、変更があればその都度話し合い、ご入居者が安心して過ごされて、不安にならないようにケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望・家族の希望を聞き、一日のケースに個々の目的を明示し達成できたか記入しカンファやモニタリングで介護計画書を作成しています。常に話し合い臨機応変に変更し家族様に説明させて頂いております。	毎月のモニタリングと3ヶ月に1度のカンファレンスを行い、事業所独自の私の気持ちシート、ケース記録、主治医の認知症高齢者日常生活判定基準記録を参考に個々のニーズに沿った計画作成(短期3ヶ月・長期6ヶ月)を行っている。新・更新計画書は家族に電話で説明し郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録書(ケース・排泄パターン・食事量・健康観察表等)から日々の申し送り気づきを共有しケアや計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や希望・家族の想いや希望によりその方の一番良いサービスが受けられる様に支援します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3階のテラスに出られて、季節の風を感じられたり、体操や洗濯物を干されたり、花の水やりや掃除等もご自由にして頂きます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人・家族希望で施設のかかりつけ医にするかどうか選んで頂き、定期的に医療が受けられる様に支援しています。認知症専門医・歯科・眼科に関しても相談して継続的に医療が受けられるように支援します。	入居時の話合いで利用者・家族の納得の上全員が協力医の内科をかかりつけ医とし月2回の訪問診療を受けている。管理者とかかりつけ医とは24時間オンコール体制がとられ緊急時も安心である。歯科医や眼科医は必要時に、歯科衛生士は口腔ケアのため毎週訪問している。認知症専門医には15名が受診主に職員が同行支援している。希望者には鍼灸師の訪問がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を置き常にご入居者の健康状態を把握し申し送りと健康観察表にて記入し職員全員に周知しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族とかかりつけ医と施設、病院関係と協議を重ね、連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		開設以来11名の看取り経験があるが、かかりつけ医の体制が最近変わったため、現在は事業所での看取りは行っていない。利用者や家族には終末期になれば、相談の上病院や施設を紹介できると説明し納得と了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを事務所に掲示し勉強会で随時職員に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い消防署の指示・許可を受けながら訓練を実施しています。又、建物を耐火や地震に強い鉄筋にし、避難経路も消防の指導のもと、2方向からの避難が確保でき、防火扉も自動にするなど、最新設備にしています。避難確保計画書も提出し災害に備えます。	従来の防災計画の整備を継続すると共に、BCP(自然災害・感染症について事業継続計画)での研修を受け、計画書の策定に向け職員と共に取り組んでいる途上である。近年発生した地震・土砂災害等に加え、長期に渉るコロナ禍での不自由な支援体験は災害リスクへの意識を向上させ全職員の結束が強まったとしている。	2024年の義務化に備え、利用者や職員・事業を守るため策定するBCP計画の浸透を図るため研修と訓練(シュミレーション)実施をスケジュール化するなどの取り組みを期待する。特に地域との連携はコロナ禍により進展はないが、今後も運営推進会議を通じてBCPを共有し災害時の家族や近隣への協力要請に努めることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は一人部屋(個室)でプライバシーを守りプライドを損なわない様に(特に排泄介助・入浴介助)ケアをさせて頂いております。	年間計画の中で接遇の研修を定期的に行っており新人研修では特に力を入れている。不適切なケアについてはその場限りの注意ではなく、原因や解決策など報告を求め、細かく話し合い支援の改善に繋げている。個人情報は鍵付の書庫に適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のやろうとしている事や行動を止めない・何事もこちらが用意するのではなく、ご本人に伺い自己決定して頂けるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の事を職員がよく理解でき、居心地のよい環境を整える事が出来る様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等のご自分で出来るだけ選んで頂き化粧水など以前されていたように出来る様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生日会には、ご入居者の希望される献立にし配膳や料理等ご自身で出来る事は一緒にさせて頂いております。	昼食は職員が業者の献立表から選定したチルドパックが届けられる。キッチンで湯煎して提供している。ご飯と汁物や朝食は職員が受け持っている。手作りの日は週1回あり行事の際はお楽しみの食事とし、お菓子作りの得意な複数の職員が本格的なケーキを作り利用者の大きな楽しみとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々により1日1200キロカロリー～1400カロリーの食事を提供し、形態も刻みやミキサー食・お粥等を提供し、食事量や水分量はリズムパターン表で記入し支援します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂き、希望により、月4回の歯科受診・口腔ケアに加え日々職員がお口の体操・口腔ケアをさせて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターン表を毎日記録し排泄の自立にむけ支援をしています。	トイレでの排泄を目標に、排泄パターン表により声掛け・誘導を行っている。殆どの利用者が退院後や入居後にオムツからリハパンに改善している。夜間のみオムツ利用者が2名いるが日中はリハパンとトイレでの排泄を支援している。布パンツで自立している4名にも職員はさりげなく同行し、見守りと確認をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物と体操から自然排便があるように努めています。ドクター指示により、3日以上排便がないことがないように、薬での調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望がない場合は決まった時間・曜日に入ってもらっています。お一人お一人ゆっくりと入浴でき職員との会話も大事にしながら楽しんでもらえるようにします。ボディークリームも天然素材の肌に優しいものを使用し、皮膚トラブルをなくすように努めています。	入浴は週2回から3回を基本としている。2階には中間浴があり立位が保てない利用者も入浴が可能である。入浴の時間を大切に捉え一人のスタッフが通して支援しゆつたりと楽しんで貰えるよう支援している。入浴を嫌がる場合は無理強いせず柔軟な対応をとっている。設計段階から職員の意見を取り入れトイレと浴室が直結しているため、自尊心を損なうことなく清潔さを維持できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の行動や考えを止めることなく安心して休息して頂ける様に、水分補給・足浴・清拭・温タオル等で支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は薬の用法・用量について理解し、情報も共有し支援させて頂いております。又ご様子に変化があった場合はかかりつけ医にその都度、指示を頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクの楽しみや生活の役割を自己決定により、もたれる事で生活リズムややりがいに繋がるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症により、1日数回は3階テラスに上がって頂き、風に触れる様に支援しています。又、ドライブに行くことで、楽しんで頂いております。	コロナ禍以前は 季節毎の花見などに頻繁にドライブに出かけていたが現在は月1回程度にとどまっている。感染予防のため外出は自粛中であるため広い3階テラスを最大限に活用し、お茶会やラジオ体操・洗濯物干し・水やりなどに頻繁に出て、日に数回は外気浴や日光浴を楽しんでいる。コロナがおさまれば、以前の様に近くの散歩や城跡公園の四季折々の花見に行きたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	キーパーソンと相談しご本人の意向に沿って低額金管理して頂く事はありますが、殆どが小遣い帳に記入し家族に確認領収書をお渡しして管理しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向に沿って、携帯をもたれたり、電話等かけたい時にいつでも出来るように支援しています。電話や年賀状等の交流もされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は安全で明るく、皆さまの作品なども飾らせて頂き、家庭的な雰囲気になるように努めています。有線から常に音楽が流れるようにしてリラックスされて、居心地の良いスペースにしています。トイレで失禁があってもそのまま入浴場に行けるように、ご本人の尊厳を守るようにしています。	リビングは窓が多く明るくゆったりとしている。季節感を味わえるよう手作りの作品(行事レクで作成したお雛様)や利用者の俳句を飾っている。職員も交えおしゃべりを楽しむ利用者や、コンサート動画をみたりと笑い声があふれ明るく過ごしている。清掃は職員とともに利用者も参加し、清潔に保たれている。床に物を置かない・滑らない工夫で安全面に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子等を共有部分に置かせて頂き自由に使って頂いております。又、気の合う方同士で、女子会をリビング・各居室でされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族とも相談してご本人の意思や希望で、前の生活空間と離れすぎないようにしています。コロナになる前は外出されても、灯りがご自身の家だと言っていた事が多く、ご自宅ではなく、灯りに帰るとお話下さいます。感謝の気持ちでいっぱいです。	居室は採光がよく明るい。カーテン・ベッド、クロゼット・エアコンが設置されており入居時に家族や利用者と相談の上、大事にしていた家具や小物を持ち込んで、自分好みに自由にレイアウトしている。家族や若い頃の自分の写真や塗り絵などの作品を飾り居心地良く過ごしている。事業所は安全面での助言を行い動線確保や家具の配置などには十分に注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の行動や考えを邪魔せず、意向に沿って(介護計画書に基づき)寄り添いのケア・パーソンセンタードケアを軸に、心を尽くすケアを目標に支援しています。		